

2-12

シーティング・ポジショニングの追求

座位姿勢・臥床姿勢の見直しによる 快適な日常の提供

シーティング・ポジショニング

座位・臥床姿勢の改善

特別養護老人ホーム みずべの苑

ケアワーカー 大渡 純一

東京都北区志茂 3-6-13

TEL 03-3598-2111

E-mail Tokuyou@Ma.Kitanet.Ne.Jp

FAX 03-5249-4852

URL <http://www.urara.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

2000年3月開設し、特別養護老人ホーム50床・ショートステイ・デイサービス・在宅介護支援・居宅介護支援から成り立つ。本件取り組みは特養2Fで実施。入居者30人・平均介護度4、歩行可能者1人・ターミナル期の方等5人

〈取り組んだ課題〉

- 入居者の重度化に対応しながら寝たきり防止・廃用性症候群を予防するべく 2002 年よりシーティング・ポジショニングのアドバイザーを招き、特養で座位姿勢・臥床姿勢の改善への取り組みを開始した。
- 目標として、褥瘡予防 座位時間の増加 臥床時のリラックス 生活のメリハリ 他入居者との交流 移動による気分転換 社会性の向上などの実現を目指した。
- 開始当初は知識と情報の不足 物品の不足 職員の認識不足により、うまくいかず入居者の重度化に全くついていけなかった。
- 係り、居室担当、アドバイザーの三者連携による検討・評価⇒試行・周知⇒再評価⇒実施・徹底⇒理解度確認・再教育の繰り返しにより改善を図った。

〈具体的な取り組み〉

- 使用物品（車椅子主要5種類・ポジショニングクッション主要4種類・シーティングクッション主要4種類を中心にエアマット、除圧マット、リクライニングチェアなどを個々の状態に合わせて組み合わせ併用）
- 全対象者用のデジカメ写真入り周知ポスターを作成し全職員間での情報の問い打つに努めた（文章・イラストだけではどうして？ドノヨウニ？の部分において伝達が不十分の為）
- 2F全職員に理解度別レクチャーを実施し、入居者個々に合わせた指導を職員にマンツーマンにて直接行う。また係りが評価中の様子を撮影したDVD作成し 職員が自由に閲覧できるようにした。

- 情報の統一と知識習得を図るためシーティング通信を係りが定期的に作成し2F全職員に配布した
- アセスメント表 評価表 デジカメ写真入り周知ポスターなどを係りが管理
- リハビリ部門との連携・情報交換、見直し評価の実施（2ヶ月ごとをメドに係り、インストラクター、アドバイザー間で話し合う）
- クッションなど新たな物品の購入・管理に係りが中心となって行う

〈活動の成果と評価〉

- シーティング評価対象者数19人（63、3%）
- ポジショニング評価対象者数17人（56、6%）
- 離床時間の増加のケース紹介（パワーポイントにて）
- 緊張の進行の防止・緩和のケース紹介（パワーポイントにて）
- 褥瘡の改善・予防（7/1現在褥瘡者0人）
- ADL・体力の低下により、改善が困難な事例もあり（アセスメント、アドバイザーへの相談は継続）

〈今後の課題〉

- 職員一人一人の更なる意識付け（当施設では排泄・食事・入浴と同等にシーティングを捉えている）
- 専門職との連携により更なる知識の習得と情報の徹底を図る（可動部位自由度の保持と身体安定のバランス）、外部研修の導入。
- 個々の考察能力 観察力の向上（相談内容の全依存ではなく それぞれの意見の議論・活性化へ）
- 個々の状態に合わせ、更なる物品購入の施設内検討